

## 第2回 磐田市行政経営審議会 議事録

日 時 平成29年10月19日(木) 19時から20時40分まで

出席者 委員10名

青島美子 委員、飯田昌弘 委員、植田 均 委員、岡本一夫 委員、  
鈴木敦之 委員、高柳裕久 委員、永井新次 委員、松下育蔵 委員、  
村上勇夫 委員、鷲崎早雄 委員、  
(欠席 1名 井上佳子 委員)

市長、副市長、事務局(企画部長、こども部長、産業部長、秘書政策課長、秘書政策課課長補佐、秘書政策課担当)

進行：秘書政策課長

### 1 開 会

2 定足数の報告(委員総数11名中10名の出席により会議成立)

3 会長あいさつ

### 4 議事

磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況について  
意見交換

#### ■磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況について

委 員	<p>1点目として、施策2-2のうち、「地域ブランド調査魅力度全国ランキング」の指標が、平成27年は398位で、平成28年は513位と下がっている。対象者の変更があったと説明されたが、どのような変更で、どうすればランキングが上がるのか？</p> <p>2点目として、合計特殊出生率と婚姻数共に減少している。未婚率が上昇している事が要因として挙げられるのではないかと。賃金が上がっておらず、不安感がある中で結婚をしない人もいるのではないかと。婚活等も取り組んでいると思うが、その対策を掘り下げて取り組むべきである。</p> <p>3点目として、工業のまちなのに工業高校がないことや、農高卒業生の多くが農業以外の分野に就職している等のミスマッチがあると思う。18歳以前への施策と18歳以降の施策がうまくマッチし、つなぐことができれば良い方向にいくと思う。</p>
事務局	<p>出生率が上昇していかないと人口は増えていかない。特に男性の未婚率が高い事と晩婚化が課題である。今後ただ婚活をやるだけではなく、産業等の社</p>

会的状況を見極めながら進めていかなければならない。また、皆さんからもご意見をいただきたい。

ブランド調査の変更点については、今までは60歳代までが調査対象だったが、70歳代までが対象となった事が大きな変更点である。本市はジュビロ等のスポーツが全国的に有名であり、推測ですが、高齢者にはなかなか知られていないのかもしれない。項目については、「磐田」を聞いた事があるか等の認知度や観光、住んでみたい等いろいろな項目を点数化している。ランキングを上げるには、各項目まんべんなく上位になる必要がある。

市内5高等学校に進学・就職アンケートを実施している中で、首都圏や中京圏に転出した若者になるべく磐田に帰ってきてもらうことが重要であると認識している。そのために産業部では、首都圏や中京圏を中心に就職相談会等を実施している。また、18歳以下の若者には、磐田はこんなに良い場所だよ、という印象を持ってもらえるよう魅力を発信していく事が大切である。これからも引き続き取り組んでいきたいと思う。

委員

「市独自調査による新規雇用者数」の数値目標が、2年間で達成した事について、市はどのような評価をしているのか。

「中小企業の製造品出荷額等」のKPIについて、達成している状況にあるが、適切なKPIかどうかも含めて、今後どうしていくのか。

事務局

製造品出荷額等のKPIについては、経済情勢の変化によって影響されるため、適切かどうか疑問という意見も分かる。委員の皆さんから何か良いKPIがあれば伺いたい。

新規雇用者数については、例えばスマートアグリカルチャーでは120名、中泉に進出した企業では80名等、企業誘致の成果だと考えている。新しい目標値については、委員の皆さんと議論していきたい。

委員

新規雇用者数はどのように把握しているのか。

事務局

職員が企業を訪問する「がんばる企業応援団事業」で聞き取り調査して把握している。

委員

「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合が87.9%と非常に高い結果だが、市民意識調査とはどのような内容になっているのか。例えば強み、弱みを把握して施策に取り組んでいくような仕組みになっているのか。

事務局

調査項目については、質問事項がいくつかあり、子育てや教育等を評価してもらい、最終的に磐田市に住みやすいかどうかの質問に対しての回答を、数値目標としている。

委員	<p>磐田市としてこれだけやっている事に対しての効果の検証が、どれだけできているのか。例えば、雇用でも経済情勢による影響が大きいと感じる。指標は経済情勢に影響されないものが必要になるのではないかと。そうしないと、PDCAサイクルをうまく回して効果を検証することができないのではないかと。</p> <p>また、数値を見る中で、さらにブラッシュアップしていく必要があると感じる。例えば、待機児童数ゼロの継続では、保育園等を利用するユーザー側の満足度のような目標を設定し、国が示しているよりも一歩上の指標を設定してもよいのではないかと。</p>
事務局	<p>指標の捉え方は非常に難しいと思う。市だけではなく、県や企業、団体等との連携も重要であり、その結果としての指標を策定しているにご理解いただきたい。一桁の数値のような指標も確かにあるが、積み重ねが重要であると認識している。</p> <p>待機児童ゼロについては、定員は相当増やした結果である。今後も継続して努力していきたい。指標については、4月1日現在では、3年連続待機児童ゼロであるが、年度途中で希望する方もいるので、今後は、定員数を増やす計画の中で、年度途中の希望者もカバーできるような指標とすることも一つ考えられる。</p>
委員	<p>「お達者な人（65歳以上の要介護認定なし＋要介護1以下）の割合」については、目標値を達成しているが、一方で、今後は下がっていく可能性があることを考えておかないといけない。それは、人口ビジョンからも分かる通り、高齢者が増え、高齢化率も上昇していく事が予想される中で、年齢が高まるにつれて、要介護認定を受ける人も増えるということである。そのためには、地域包括ケアシステムが重要であり、これは、医療、介護の連携や地域の人達自らが健康づくりや助け合いに参加して、全体としてネットワークを構築することで、元気な高齢者が、具合が悪い人に対して直ちに対応できるような地域をつくっていくことが狙いである。</p> <p>また、介護保険料では、磐田市でも2025年には8200円に増加すると予想されている。地域包括ケアシステムというのは、財政的に介護保険をどのように維持、継続していくかが課題となっている面もあり、今後、市としてどのように考えていくか教えてほしい。</p>
事務局	<p>単年度ではなく長期的に見る必要があると考えている。2025年問題もあるので、当然介護を受ける人も増えてくると思う。その中で、介護されない人や要介護認定をどう抑えるかが課題となり、それには、地域での支えあいや予後をどうやっていくかが重要になってくると思う。財政的には、社会保障費が増えていく中で、どう抑えていくかが、市だけではなく、国としても課題である。</p>

委員	<p>県の立場から言うと、磐田市の施策は素晴らしいと思う。例えば、スマートアグリカルチャーでは環境にやさしい取り組みをしている。また、聖隷ぴゅあセンター磐田のように、福祉の分野でも、その人の一生を支援している取り組みがある。渚の交流館も災害と交流をモチーフにしており、磐田ならではのものが多くあるのに、市民に知られていないのではと思う。せっかく良い事をしているのに、伝わりきれていないという事がある。</p> <p>総合戦略の効果の検証について、行政の分析は定性分析に近い形になりがちである。効果の検証をするには、1年ごとに目標値を決めて、施策ごとに仮説をつけて検証し、市民に知らしめるというよりは、個別施策を市の中で検討していくほかないと思う。</p> <p>本当に検証したいという事なら、定性分析と定量分析をして、各施策の中でどれだけの効果が上がっているのか、毎年の数値を検証する事が重要である。</p> <p>行政、企業、市民がどれだけモチベーションを高くやっていくかは、いかに磐田が素晴らしいかを周りから共鳴共感を得るか、そのための施策をしていき、機運を高める事が重要である。また、静岡産業大学の学生の情報発信力を活かしたらどうかと思う。</p>
事務局	<p>一つの数字をどうやって分析していくかは重要であると認識している。数字だけでなく、その裏を考えないといけないと思っている。そこから次の施策をうっていく事が大切である。</p> <p>情報発信については、いろいろな媒体、手段を用いて行うことが重要である。インスタグラムの投稿については、磐田市は県内の市町ではトップであり、今後できるだけ多くの人に磐田市を知ってもらえるようにしていきたいと思う。</p> <p>大学とはいろいろ連携して取り組んでいるところであり、冠講座も実施している。静岡産業大学の学生が最終的に磐田市に就職してくれれば良いと思う。</p>
委員	<p>Uターン就職の促進については、来年度からUターン促進奨学金返済支援補助金制度が始まるという事で、それに加え、例えば、市民税を5年間免除にするといった、思い切った施策も必要なのではないか。ぜひ若者が帰ってくるような取り組みをし、そこから結婚、出産といった流れをもたらししてほしい。</p>
事務局	<p>奨学金返済支援補助金については、現在高校等に周知を図っているところであり、多くの人にご利用いただいて、磐田市に若者が帰ってきてほしいと思う。</p> <p>Uターンに対する施策では、引っ越し費用の助成等様々なものがある。磐田市にとって、どのようなものが有効なのか見極めながら検討していきたいと思う。</p>

委員	<p>市長と市政を語る会の中で、自治会長の方から、職員の態度が変わったという意見が挙がった。これは市全体の方向性が実を結んだと思う。また、住みよさを実感できるまちづくりの中で、デマンド型乗合タクシーも他から取り入れたいという声が聞かれる。</p> <p>中学生海外派遣事業の話聞いたが、ベトナムのヤマハ発動機の現地工場見学があったという事で、磐田市には地元到大企業があるので、授業の一環の中で、工場見学の体験をすることで、磐田の良さを実感してもらえるのではと思う。</p> <p>住みよさというのは、数字では難しいとは思いますが、全体を通して言えるのは、磐田市が住みやすいという考えが芽生えてきているという事で、継続して頑張っていってほしい。</p>
----	---

### ■意見交換

委員	<p>労働力が不足している現況から、高卒の就職者は増えることが予想されるため、そこにいち早く対応し、企業の情報等を入手して、連携してやっていくことが必要ではないか。</p> <p>産業については、情報収集能力を磨き、身につけ、今までの発想から変えていくことが必要であり、産官学金の連携を深めていくことが求められる。</p>
委員	<p>先日の産業振興フェアでは、多くの学生が来場したが、高校生は数名であった。磐田市の企業はこんなにすごいんだ、と知ってもらうことが必要である。そのためには、行政、企業、教育現場の連携を強化して、地元への就職観を高めていく必要がある。</p> <p>また、ものづくりの産業振興フェアではあるが、そこに、製造業以外の分野も絡めて、より広い分野で地元の企業を知ってもらう工夫も必要ではないか。</p>
委員	<p>自然減は難しい問題であるが、磐田市は直近では社会増に転じている。これは、JR新駅等での新たなまちづくりが進んでいるからではないか。これから必要な事は、良いものの定着化を図る取組みであると思う。また、磐田市で持ち家をもって、定住してくれるような取組みも必要である。</p> <p>EV化が進んだ時に、自動車関係の輸送用機器の部品が減る中で、中小企業を中長期的に支援していかないと、転換が図れない。磐田の中小企業を守る、という姿勢を大切にしてほしい。</p>
委員	<p>社会増減について、磐田市は住みやすいと思うが、市街化調整区域のハードルが高い。豊田町駅周辺等は浜松市からの移住定住のターゲットにもなると思うので、市街化調整区域を見直して、宅地を増設していければ、自然と人口が増えていくと思う。</p>

委員	<p>事業所数が減る中、製造業のまち磐田といつまで言えるのか。中小企業の活力があるからこそ、経済力がある。経済力があるからこそ、人が集まる。</p> <p>魅力があって、技術がある企業はたくさんある。技術を開発したのは、磐田の先輩方であり、そういった事を今の高校生等に発信できる仕組みがあれば良いのではないかと思う。</p>
委員	<p>産業別就業者数について、女性の就業者数はサービス業の中で、医療・福祉の分野で多くなっているが、この福祉や介護の職場は、景気が悪い時には就職者が多くなり、景気が良い時にはその逆である。そして、絶対数が不足しており、将来、介護してくれる人がいなくなってしまう事が想定される。女性の雇用の確保も含めて、何かしらの支援策を地域の中で考えていかないといけない。働きやすい職場、風通しの良い職場に加え、人と関われるので、人間的に成長が図られ、人を育てていく、ものの見方を向上していけるような仕組みを作っていければと思う。</p>
委員	<p>磐田市の良さをもう少しPRして、上手に発信していったら、もっと良くなると思うので、頑張ってもらいたい。</p>
委員	<p>新しい企業を誘致することも必要だが、新しい産業も必要になってくると思う。工業面を発展させると同時に、磐田ならではの新産業を開発していく必要があると思う。</p> <p>委員の皆さんが言うように、住みやすいまちというのは間違いないので、総合戦略の取組みを着実に遂行してほしい。そして、人材の育成の確保をお願いしたい。</p>
委員	<p>磐田市は活力に満ちて、住みやすさもある。そのことを維持し、発展させる中で、将来の事を考えると、まちの中で自立的にイノベーションが起こる仕掛けが必要である。産官学金が組織化して、そこから何かできないかと思う。</p>

5 その他

6 閉 会

以上 審議会 終了（20：40）